

## 役員及び評議員の報酬並びに費用弁償に関する規程

### (目的及び意義)

第1条 この規程は、社会福祉法人忠悠福社会（以下「この法人」という。）の定款第8条及び第21条の規定に基づき、役員及び評議員の報酬並びに費用弁償（以下「報酬等」という。）に関し必要な事項を定めることを目的とする。

### (定義等)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 役員とは、理事及び監事をいう。
- (2) 評議員とは、定款第5条に基づき置かれる者をいう。
- (3) 報酬とは、社会福祉法第45条の3第1項で定める報酬、賞与その他の職務執行の対価として受ける財産上の利益であって、その名称の如何を問わない。
- (4) 費用とは、職務遂行に伴い発生する交通費、旅費（宿泊費を含む）等の経費をいう。報酬とは明確に区分されるものとする。

### (報酬の支給)

第3条 この法人は、役員に職務執行の対価として報酬を支給することができる。

- 2 評議員には、定款第8条で定める金額の範囲内で、報酬を支給することができる。
- 3 理事で使用者としての立場を有する者に対しては、報酬を支給しない。ただし、正規の勤務時間外に開催される理事会等に出席した場合は、報酬を支給する。

### (報酬等の額の決定)

第4条 この法人の全理事の報酬総額は、年間30万円以内とする。

- 2 この法人の全監事の報酬総額は、年間10万円以内とする。
- 3 この法人の理事及び監事に対する報酬は、別記1「理事・監事の報酬」に定める額とする。
- 4 個々の評議員の報酬は、別記2「評議員の報酬」に定める額とする。

### (費用弁償)

第5条 この法人は、役員及び評議員がその職務の執行に当たって負担した費用については、これを請求のあった日から遅滞なく支払うものとし、また前払いを要するものについては、前もって支払うことができるものとする。

- 2 役員及び評議員には、出張に要する旅費（宿泊費含む）を、社会福祉法人忠悠福社会旅費規程に準じて出張費として支給することができる。

(報酬の支給日)

第6条 役員及び評議員の報酬等は、理事会又は評議員会への出席の都度、支払うものとする。なお、何らかの事情により理事会又は評議員会が開催されず、法に定める決議の省略又は報告の省略の手続きにより決議又は報告があったとみなされることとなった場合も出席があったものとみなす。この場合、決議又は報告があったとみなされる日を支給日とする。

(報酬等の支給方法)

第7条 報酬は、通貨をもって本人に支給又は支払うものとする。ただし、本人の同意を得れば本人の指定する本人名義の金融機関口座に振り込むことができるものとする。  
2 報酬等は、法令の定めるところによる控除すべき金額を控除して支給する。

(公表)

第8条 この法人は、この規程をもって、社会福祉法第59条に定める報酬等の支給の基準として公表する。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、評議員会の決議によって行う。

(補足)

第10条 この規程の実施に関し必要な事項は、理事長が評議員会の承認を経て、別に定めるものとする。

附 則

この規程は平成29年1月16日から施行する。

この規程は平成30年3月16日から施行する。

この規程は令和3年3月13日から施行する。

別記1 理事・監事の報酬

理事：理事会への出席の都度、一人一律5,000円

監事：監事監査及び理事会への出席の都度、一人一律5,000円

なお、上記報酬の金額は、源泉徴収所得税額を控除した後の額とする。

別記2 評議員の報酬

評議員会への出席の都度、一人一律5,000円

なお、上記報酬の金額は、源泉徴収所得税額を控除した後の額とする。